

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	人吉温泉 鍋屋 (新館)	階数	地上7F		
建設地	熊本県人吉市九日町22-2	構造	S造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	148 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年3月31日		
敷地面積	3,130 m ²	作成者	佐竹 剛		
建築面積	777 m ²	確認日	2022年3月31日		
延床面積	3,077 m ²	確認者	佐竹 剛		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 0.8

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

85%

2 熊本県重点評価結果

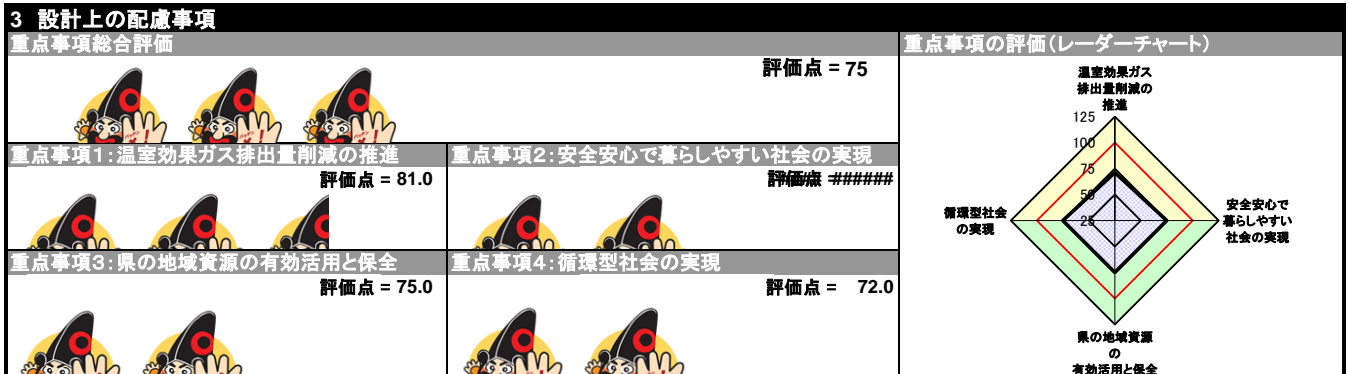
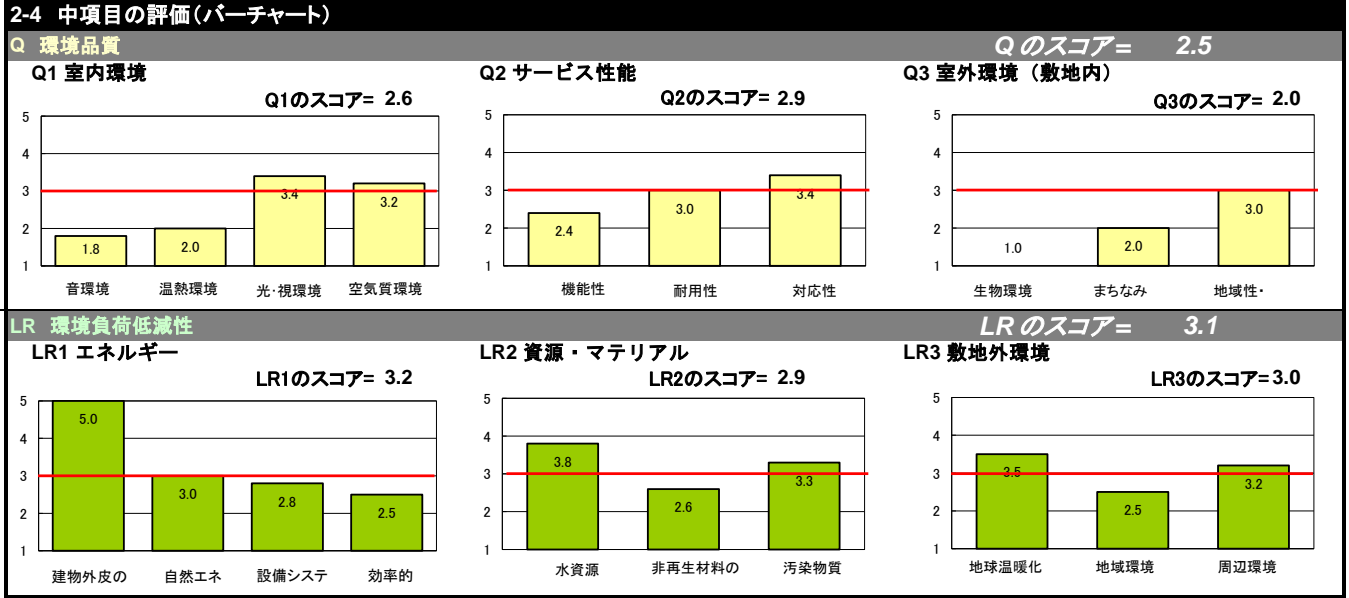
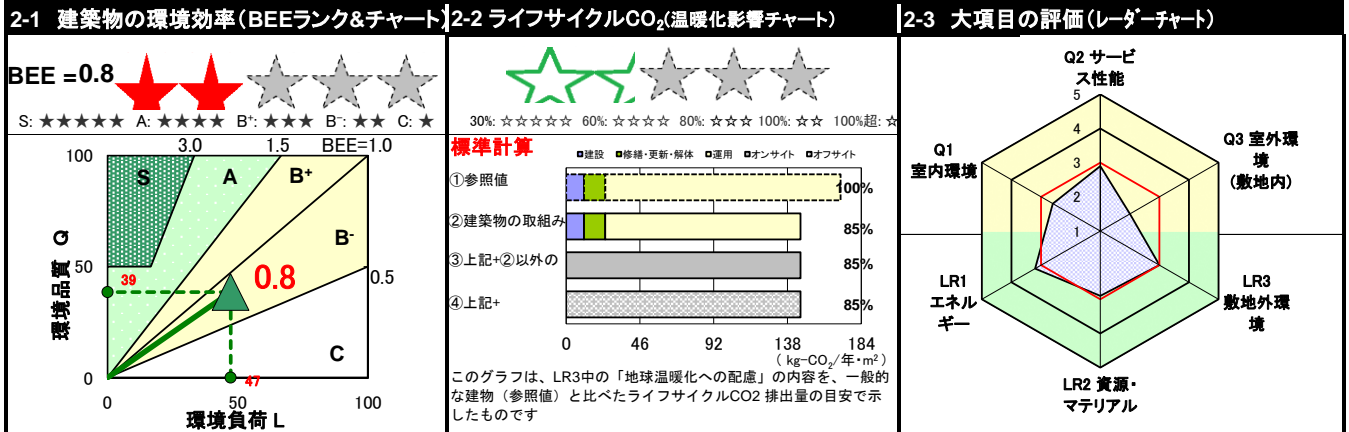
■ 重点事項総合評価		評価点												
		75												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p>81.0</p> <p>63.7</p> <p>75.0</p> <p>72.0</p>	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	人吉温泉 鍋屋(新館)	階数	地上7F		
建設地	熊本県人吉市九日町22-2	構造	S造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	148 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年3月31日		
敷地面積	3,130 m ²	作成者	佐竹 剛		
延床面積	3,077 m ²	確認者	佐竹 剛		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本<<新築>>【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・ 球磨川沿いの絶好のロケーションを誇る旅館。

Q1 室内環境

- ・ エントランスロビーや客室は、窓面が大きく、積極的に昼光を取り入れる。
- ・ 客室はオーダーメイド個別調光器を設置し、細かな照明制御が可能。
- ・ 内装仕上、天井裏等に使用する材料は、F☆☆☆☆等とする。
- ・ 換気量は1人あたり30㎡人を確保

Q2 サービス性能

- ・ 客室の天井高は最低2.5m。
- ・ 基準階の階高は4.0m。
- ・ クロスは防汚性ありを使用し、維持管理に配慮。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 中間領域としてテラスあり。（2Fレストラン、南側客室）
- ・ 室外機は全容量の50%程度を5F以上に設置する。

LR1 エネルギー

- ・ BPI_m=0.83
- ・ BEI_m=0.79

LR2 資源・マテリアル

- ・ 大便器は節水Ⅱ型（6.5L/回）とする。
- ・ 節水型水栓を使用する。
- ・ 井水を利用する。
- ・ 断熱材はノンフロン品を使用。

LR3 敷地外環境

- ・ ライフサイクルCO₂排出率82%
- ・ 適切な量の駐車スペースを確保。
- ・ 「光害対策ガイドラインのチェックリスト」「広告物照明の取扱い配慮事項」を満たし、屋外照明と屋内照明のうち外に漏れる光について対策している。

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
人吉温泉 鍋屋(新館)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境			0.40		-				2.6
1 音環境		1.8	0.15	1.8	1.00				1.8
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40				
1.2 遮音		1.0	0.40	1.0	0.40				
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30				
2 界壁遮音性能			-	1.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	1.0	0.20				
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20				
2 温熱環境		2.0	0.35	2.0	1.00				2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50				
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20				
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30				
3 光・視環境		3.3	0.25	3.6	1.00				3.4
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.6	0.30				
1 昼光率	全体・共用:2.5%以上、宿泊:1.0~1.25%	5.0	0.60	4.0	0.60				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御	宿泊:室内の複数部分に対して細かい照明制御ができる	3.0	0.25	5.0	0.25				
4 空気質環境		3.3	0.25	2.8	1.00				3.2
4.1 発生源対策		4.0	0.50	3.0	0.63				
1 化学汚染物質	全体・共用:建築基準法を満たす、ほぼ全面的(70%以上)	4.0	1.00	3.0	1.00				
4.2 換気		2.5	0.30	2.6	0.38				
1 換気量	全体・共用:30m3/h・人以上、宿泊:30m3/h・人以上	4.0	0.50	4.0	0.33				
2 自然換気性能			-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33				
4.3 運用管理		3.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視			-		-				
2 喫煙の制御		3.0	1.00		-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				2.9
1 機能性		2.4	0.40	2.8	1.00				2.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性			-	3.0	0.50				
2 高度情報通信設備対応			-	3.0	0.50				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40				
1 広さ感・景観	天井高:2.5m以上		-	4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース			-		-				
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	クロスは防汚性ありを使用 等	4.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30		-				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		3.0	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-				
3 電気設備		3.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-				

3 対応性・更新性		3.4	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			-	4.2	0.50	
1 階高のゆとり	宿泊：階高3.9m以上		-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.4	1.00			
1 空調配管の更新性		3.0	0.20			
2 給排水管の更新性		3.0	0.20			
3 電気配線の更新性	ケーブルラックや電線管を使用し、構造部材、仕上材を痛めず更新可	5.0	0.10			
4 通信配線の更新性	ケーブルラックや電線管を使用し、構造部材、仕上材を痛めず更新可	5.0	0.10			
5 設備機器の更新性		3.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						3.1
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.83	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.83	2.8	0.50	-	-	2.8
4 効率的運用		2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価		2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	
4.1 モニタリング				-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護		3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水	大便器：節水Ⅱ型(6.5L/回) 節水型水栓	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	評価対象となる用途に供する井水の利用あり	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	天井にLGS使用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率82%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐車スペース確保 等	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たす、配慮事項の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート				実施設計段階		
建物名称		人吉温泉 銅屋(新館)				
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2018(v3.0)		■使用評価マニュアル: CASBEE熊本<<新築>>2017年版				
★熊本県重点評価結果				総合評価点	75	
重点事項			評価点	重点事項 重み係数	評価配点	
重点項目(配慮項目)		スコア				重み 係数
① 温室効果ガス排出量削減の推進						
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05	81	0.40	32.40
Q1-3.1.3	屋光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	屋光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現						
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25	63.7	0.20	12.74
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全						
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20	75	0.20	15.00
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現						
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30	72	0.20	14.40
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数